

読書のすゝめ HP版

その2

H 28 4 / 13



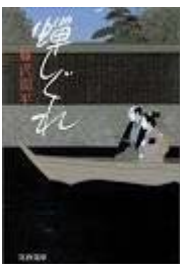
新任の先生紹介②

新任の先生方のおすすめ本を紹介します。

『蝉しぐれ』藤沢周平 (偕成社)

いわゆる「時代小説」が大好きです。どちらかというところ、作家にこだわって読みます。最近では「葉室麟」の時代物を読んでいます。最近、銚田二高の皆さんにおススメしたのが藤沢周平の『蝉しぐれ』です。

東北の小藩を舞台に、藩の権力争いにより父を亡くし、苦難の少年時代を過ごしながらも成長していく一人の武士を描いた作品です。人生に翻弄されながらも、一途に自分の大切なものを守ろうと困難に立ち向かってゆく姿に胸を打たれます。NHKのTVドラマや映画にもなっていますので、映像を先に見るのもよし。原作を読むもよしです。どんな苦境に落ち入っても耐えてゆける「心の拠り所」を、主人公が教えてくれるかもしれません。



『夜のピクニック』恩田陸 (新潮社)

この本は、自分が「高校生の時に読んでみたかったなあ」と思える本です。著者の母校である水戸一高の歩く会をモデルとしています。「みんな夜歩く。ただそれだけのことがどうしてこんなに特別なんだろう。・・・心が温まる青春小説です。人との関わりが希薄化している今、改めてもう一度、友だちの大切さ、高校生の時にしかできないことを見つめ直してみませんか？そのきっかけとしてくれる一冊です。



第2回本屋大賞、第26回吉川英治文学新人賞を受賞した作品。また、2004年度『本の雑誌』が選ぶノンジャンルベスト10では1位に選ばれた。

本屋大賞発表！

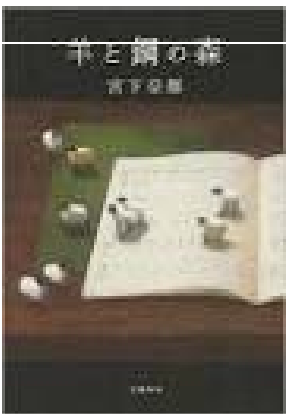
(4月12日)【全国書店員が選んだ いちばん！売りたい本】

昨年11月から本年1月3日まで一次投票があり、全国435書店552人の投票がありました。上位10作品がノミネートされましたが、『羊と鋼の森』が第13回の本屋大賞となりました。図書館にはノミネートされた10作品とも配架されています。また、図書館内にコーナーを設け、過去の本屋大賞受賞作を置いています。

『羊と鋼の森』宮下奈都

(文藝春秋)

・比べることはできない。比べる意味もない。朝日も夕日も同じ太陽であるのに美しさの形が違う。(引用)
・才能ってというのは、ものすごく好きだっていう気持ちなんじゃないか。(引用)
「タイトルの羊はハンマー、鋼は弦。主人公の外村が、ピアノという森、人生という森に入り込んでいく、という意味も含んでいます。」(著者)



てしまえばそれだけの内容だが、ありふれた、普通の人の才能・可能性について、おだやかで、また、丁寧に紡ぎだされた言葉に、読後は心がしんと静まり、励まされる内容になっています。

※この本は本年度、県東地区生徒図書委員会での読書会テキストにも選ばれています。

(先見の明アリ！)